

## 英語科学習指導案

日 時 令和元年5月31日（金）公開授業Ⅱ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
3年A組 40名  
会 場 集会室  
授業者 大瀧 航

### 1 単元名 Lesson 2 France – Then and Now (NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 3)

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

これまで生徒は、日本の食文化やインドの言語・文化について学んできた。ALTの先生に地元のおすすめのレストランを紹介したり、インドと日本の文化を比較して感想を伝え合ったりする言語活動を通して、コミュニケーションの対象となる相手を具体的に想定した相手意識のある発表ができるようになってきた。

一方で、生徒の授業の様子から、正確性にこだわるあまり、あらかじめ準備した発表内容に依存する姿や、相手の発話にフィードバックを返そうとする共感的なコミュニケーションの態度の不足を感じた。実際、単元に入るにあたって行った意識調査では、「即興で英語のやり取りを行う」という項目に対し、約6割の生徒が「不安を感じる」と答えた。

そこで本単元では、前述した不安感の解消、苦手意識の克服のため、「ラグビーW杯出場国と日本との間で交流されているものや人」という単元のテーマに向かって、自分の考えや事実を伝えることに加え、質問に対する受け答えを通じて、やり取りを含む言語活動を繰り返して行く。話し手の一方的な発表にせず、イラストをヒントに質問し合うことで、相手の考えや情報を引き出すことができるようにしたい。単元の中の様々な言語活動で、原稿に頼らずに発話を繰り返すことによって、即興で英語のやり取りを行うことへの自信をつけることを目指す。また、単元のテーマについて、情報を収集していく過程で、ラグビーW杯出場国への関心を高め、興味をもって他国とも関わろうとする、主体的なコミュニケーションを図る態度を育成したい。

#### (2) 教材観

本単元は、新『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(3) 話すこと [やり取り] イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」を中心に、「(5) 書くこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」を統合的に学習できる単元と考える。

題材として、フランスと日本の文化交流の話題が取り上げられており、例として19世紀のフランスの芸術に影響を及ぼした日本の文化や、現在フランスで流行している日本の漫画が紹介されている。他国との文化交流について知ること、私たちが住む社会には、多種多様な文化が存在することを学ぶことができる単元である。

言語材料としては、現在完了形と疑問詞+ to不定詞を学習する。現在完了形を学習することで、その過去から現在までのつながりが感じられる奥行きのある表現が可能となる。また、疑問詞+ to不定詞の表現は、既に自分が知っていることや、尋ねたいことなどについて、より具体的に説明することができる便利な表現である。既習の事項と関連付けながら学習を進め、言語活動を通して適切に活用できるようにさせたい。

### (3) 教科研究との関わり

本校英語科では、全体研究主題「Society5.0を生き抜く『人間の強み』を育む学びの構想」のもと、教科研究主題を「互いの多様性を認め合い、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力を、文部科学省が示した外国語科における「資質・能力」と、本校学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」に沿って整理し直した（教科論参照）。また、教科研究の視点3点について、その手立てを4点掲げ、実践研究を進めていくこととした。

単元のまとめの活動として、「ラグビーW杯出場国と日本との間で交流されているものや人についてやり取りを行うこと、またやり取りを通じて知り得た情報をもとにレポートを書くこと」と定める。実際の具体的なコミュニケーション場面における「見方・考え方」を働かせることができるように、相手や題材、発信の方法を定めた上で、イラストなどを使うなど自分の考えを表現する時に補助となるものを使わせたい。

単元のまとめの活動に向かう過程では、教科論の研究内容にも示している通り、手立て1「指導・評価計画の工夫」を軸とし、単元シートやループリックを用いながらコミュニケーションや題材についてスパイラルな振り返りを行い、「見方・考え方」を深化させたい。また、手立て3「『ホンモノ』題材の活用」にある通り、自分たちが調べた国と日本との間で交流されているものや人について伝え合うという言語活動を行う中で、身近にある題材の価値の再発見、他者を配慮し受け入れる寛容な態度を磨き、様々な国の情報について交流される内容豊かなコミュニケーションを図ることへと繋げていきたい。

#### 手立て1「指導・評価計画の工夫」（教科論より）

本校英語科では、新学習指導要領完全実施に向け、「資質・能力」との整合性を図りながら、「附属中学校 CAN-DO リスト」および単元構想の修正、言語活動の分類や系統性、評価の時期や方法、回数等のリンクを行い、3年間の見通しをもてるよう、年間指導計画の整理を行っている。文法シラバスに縛られず、題材配列の組み直しや場面シラバスの洗い出しをすることで、どの学年のどの時期に、どのような題材を配置し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していきたいか、教員が能動的に指導計画を立てることが可能になる。また、各単元等のまとまりの中で身に付けさせたい見方・考え方について、題材の類似や相違、重点を置く資質・能力を明らかにすることで、広げたり深めたりする適正時期を見極めることができる。

しかし、教員のみならず生徒自身が、その内容を学ぶことで「何ができるようになるか」というイメージをもつことが主体的な学びを可能にする。そこで、前期研究に引き続き、毎単元においては、最初の1時間を学習の見通しと題材について興味をもたせる時間として設定し、単元の最後に行う表現活動（パフォーマンステスト）の内容を生徒と共有する。単なる知識・技能の習得にとどまらず、「何のためにその内容を学ぶのか」、その内容を学ぶことで「何ができるようになるのか」を生徒が分かった状態で単元の学習を始める。生徒自身がこの時間に「何ができるようになれば良いのか」を考え、「めざす姿」に向かって「見方・考え方」を働かせながら学びに向かわせたい。

また、学びのプロセスの中で、前期研究の成果としても挙げた、ループリックを用いた質的向上を目指す評価についても継続して行っていく。

#### 手立て3「『ホンモノ』題材の活用」（教科論より）

英語は言葉であり、言葉は文化の表れである。英語という教科は、理科や社会などの内容教科と異なり、教員による自由な題材選択の幅が広い。教科書に掲載されている豊かな題材を入口としながらも、生徒の心を動かし感性を磨くような「ホンモノ」題材を積極的に取り入れ、授業の中で活用したいと考える。世界を変えた名スピーチや目的・想いをもって創られた音楽、心揺さぶる映画や世界の諸問題について真剣に考えるきっかけとなる映像など、「ホンモノ」の熱量を感じさせたい。そのような生きた題材を通して行われる意見交換やスピーチ、ディスカッションなどの言語活動は、生徒が実際に自分の考えや気持ちなどを相手に伝えたいくなるような、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うに資するものであり、「真に思考力、判断力、表現力を育成するような言語活動」（中央教育審議会答申）であると言える。「ホンモノ」を活用した、実質的な言語活動を行うことで、内容豊かなコミュニケーションを図ることができる生徒を育成したい。

また、学年を超えて互いの「ホンモノ」の考えや気持ちを交流することで、自己の学びの過程を振り返ったり、見通しをもったりすることがより実感を伴って可能になる。そこで、授業の中で先輩の発表映像を見せたり、「英作文集」を作成したりすることで、各学年で活用し学び合えるような仕組みづくりについても検討を始めている。

### 3 単元計画

#### (1) 育成を目指す資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力, 人間性等
英語科で身に付ける 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>習得した外国語の知識や技能を聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて, 言葉の曖昧さに耐えながら, 外国語で柔軟に自分の考えを伝え合う力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を尊重し, 傾聴や考えの深化・再構築をしながら, 外国語を用いて双方向のコミュニケーションを図ろうとする力。</li> <li>多様な話題に興味・関心をもち, 自らの感性を磨きながら, 外国語を用いて豊かにコミュニケーションを図ろうとする力。</li> </ul>
単元で身に付ける 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国と日本との間で交流されているものや人についての情報を話したり, 書いたりすることで習得した知識や技能を活用する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国と日本との間で交流されているものや人について, 情報を整理し, 相手に分かりやすく伝える力。</li> <li>相手が示した情報に応じて, それに関連した質問や考えを述べ, 内容を深めながら, 対話を継続・発展する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国と日本との間で交流されているものや人についての情報や考えを相手に分かりやすく伝えようとしたり, 相手の話について主体的にやり取りをしたりする力。</li> <li>他国と日本との間で交流されているものや人について, 興味・関心をもち, 自ら調べたり, 相手から吸収したりして, 追究しようとする力。</li> </ul>

#### (2) 指導目標

①他国と日本との間で交流されているものや人について, 調べたことを分かりやすい英語で伝え合うことや, 相手が話したことについて質問や考えを適切に述べることができるようにする。

【思考・判断・表現】

②他国と日本との間で交流されているものや人について伝え合ったことを整理し, まとまりのある文章を書くことができるようにする。

【思考・判断・表現】

③他国と日本との間で交流されているものや人について伝え合うために, 必要な言語材料について正しく理解させ, 適切に使わせる。

【知識・技能】

④聞き手, 話し手が相互に配慮し合い, 共感的にコミュニケーションを図る態度を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

#### (3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①単元で学習する言語材料(現在完了形, 疑問詞+ to 不定詞)を含む文について, 形, 意味, 使い方を理解しており, 実際の場面で使う技能を身に付けている。	①他国と日本との間で交流されているものや人について, 相手の質問に応じながら, 分かりやすい英語で伝え合うことができる。 【話すこと】 ②やり取りした情報を整理した上で, 自分の考えやそれらを取り巻く状況などについて, まとまりのある文章を書くことができる。 【書くこと】	①自分が調べたものについて, 情報を整理し, 分かりやすく伝えようとしている。 ②相手の話に興味を示しながら, 質問や考えを述べようとしている。 ③言語活動について関心をもち, 自分の考えや気持ちについて主体的に相手と交流している。

#### (4) 単元に該当する指標形式の目標(本校 CAN-DO リストから抽出)

話すこと (やり取り)	補助となる絵やものを用いて, 他国と日本との間で交流されているものや人, ALT の先生や留学生についての情報を, 分かりやすい英語で交流することができる。
書くこと	自分のモットーや他国と日本との間で交流されているものや人について, 事実や考えを整理し, まとまりのある文章を書くことができる。

(5) 指導計画及び評価計画

時	学習課題 ・ 学習内容 ◆指導の留意点 ★フィードバック	関連する評価の観点			見とりの視点 【評価方法】
		知技	認識	態度	
1	<p><b>Let's think about foreign culture. (Introduction)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元のゴール（ラグビーW杯出場国と日本との間で交流されているものや人についてのやり取りとレポート）を知る。</li> <li>・単元の学習の流れを確認する。（単元シート）</li> <li>◆単元の学習を通してつけたい力について考える。</li> </ul>		①	③	<p>ゴールの場面を想起し、まとめの活動に必要な視点・ポイント（＝工夫）について自ら考えているか。</p> <p>【単元ナビ】【観察】</p>
2	<p><b>Let's become Marie Dupont. (GET1-1)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形(肯定文)を含む文の使い方を、教科書本文を通して理解する。</li> <li>・教科書本文の内容を理解する。</li> <li>・教科書本文を暗唱する。</li> <li>◆穴あき音読シートなどを活用して、段階的に進める。</li> </ul>	①		③	<p>主体的に音読活動に取り組んでいるか。</p> <p>【観察】【後日ペーパーテスト】</p>
3	<p><b>Let's introduce yourself. (GET1-2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形(肯定文)を含む文の構造を理解する。</li> <li>・現在完了形(肯定文)を含む文をつくる練習をする。</li> <li>・自己紹介の中で、現在完了形を用いて表現し、英語で交流する。</li> <li>◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。</li> </ul>	①		③	<p>習得を目指す言語材料を、積極的に言語活動で活用しているか。</p> <p>【観察】【後日ペーパーテスト】</p>
4	<p><b>Let's ask questions to Ms Dupont. (GET2-1)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形(疑問文)を含む文の使い方を、教科書本文を通して理解する。</li> <li>・教科書本文の内容を理解する。</li> <li>・教科書本文をアレンジしてQ&amp;Aを行う。</li> <li>◆本文の中で考えられる質問を共有しながら進めることで、質問する力を高める。</li> </ul>	①		③	<p>習得を目指す言語材料を活用しながら、主体的に言語活動に取り組んでいるか。</p> <p>【観察】【後日ペーパーテスト】</p>
5	<p><b>Let's ask questions to friends about the introduction. (GET2-2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形(疑問文)を含む文の構造を理解する。</li> <li>・現在完了形(疑問文)を含む文をつくる練習をする。</li> <li>・趣味や好きなことについて、現在完了形を用いて英語で交流する。</li> <li>◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。</li> <li>★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。</li> </ul>	①		③	<p>習得を目指す言語材料を、積極的に言語活動で活用しているか。</p> <p>【観察】【後日ペーパーテスト】</p>
6	<p><b>Let's read the article about Japanese culture in France. (USE-Read 1)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文の内容を読み取る。</li> <li>・昔と今のつながりに注目して、どのような表現を使っているか確認する。</li> <li>◆ペアで協力しながら読み取りを行わせ、内容の理解を促進する。</li> </ul>	①		③	<p>主体的に音読活動や読み取りに取り組んでいるか。</p> <p>【観察】</p>
7	<p><b>Let's think about French culture in Japan. (USE-Read 2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容を要約する。</li> <li>・日本に存在するフランスの文化について交流する。</li> <li>◆文化交流がなされる理由について考えさせる。</li> <li>★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。</li> </ul>		①	③	<p>文化交流についての自分の考えをもち、積極的に伝え合っているか。</p> <p>【単元ナビ】【観察】</p>
8	<p><b>Let's learn foreign cultures. (まとめ-1)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーワールドカップに出場する国との文化交流について調べる。</li> <li>◆グループ別に調べさせる。</li> </ul>		①	③	<p>他国との文化交流について関心をもち、主体的に調べ学習に取り組んでいるか。</p> <p>【観察】</p>

9 本時	<p><b>Let's talk about the rugby world-cup countries.</b> (まとめ-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が担当した国と日本との交流されているものや人について分かりやすく伝える。</li> <li>英語での質問を通じて、情報を得る。</li> <li>◆英語でのやり取りを促進するために視覚的な情報を活用させる。</li> </ul>	①	① ②	自分が調べたものについて、情報を整理し、分かりやすく伝えようとしているか。 相手の話に興味を示しながら、質問や考えを述べようとしているか。【観察】
10	<p><b>Let's talk about the rugby world-cup countries.</b> (まとめ-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時とは異なる人とグループを組み、交流する。</li> <li>英語での質問を通じて、自分が必要な情報を得る。</li> <li>◆英語でのやり取りを促進するために視覚的な情報を活用させる。</li> <li>★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。</li> </ul>	①	① ②	自分が調べたものについて、情報を整理し、分かりやすく伝えようとしているか。 相手の話に興味を示しながら、質問や考えを述べようとしているか。【単元ナビ】【後日パフォーマンステスト】
11	<p><b>Let's write the report.</b> (まとめ-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を受けて、感じたことや考えたことについて話す。</li> <li>前時に伝え合った内容を整理し、まとまりのある文章を書く。</li> <li>★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。</li> </ul>	②	①	他国と日本について伝え合ったことを整理したうえで、自分の考えを英語で分かりやすく伝えることができるか。【英作文】
12	<p><b>Review the Lesson 2.</b> (単元テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元テストを行い、語句や文法の定着を確かめる。</li> <li>単元の学習の振り返りを行う。(リフレクションシート)</li> <li>◆単元の学習を通してできるようになったこと、成長したことを共有する。</li> </ul>	①	②	単元で学習する言語材料を含む文について、形、意味、使い方を理解しており、実際の場面で使う技能を身に付けているか。【単元テスト】
後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化交流に関しての初見の説明文を読み、内容理解を問う問題。</li> <li>場面を与えて、適当な表現を書く問題。</li> </ul> <p>&lt;パフォーマンステスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A L Tと自分が調べた国についてのやり取りをする。</li> </ul>	①	①	単元で学習した言語材料について理解し、適切に使うことができるか。 【ペーパーテスト】 他国との文化交流について調べたことを整理したうえで、自分の考えを英語で分かりやすく伝えあうことができているか。 【パフォーマンステスト】

※網掛け部分が単元のメインとなる評価場面。

(6) パフォーマンス評価に使用するルーブリック評価表

観点	評価項目 / スコア	0	1	2	3	4
技能	語い 文法	W杯出場国と日本との文化交流についての話題から外れている。また、十分な量をはなしていないので伝えたいことが分からない。	使用する語いや文法が非常に限られているが、簡単に具体的な文化交流の例については、語や句をつなげながら表現することができている。	限られた語いや文法で、簡単に具体的な文化交流の例について、誤りはあるものの文をつくり、表現することができている。	文化交流の例を示すときに複雑な内容の説明を、誤りが見られることもあるが、語いや文法を適切に使用し、アイデアを順序立ててつなげることができている。	文化交流の例を示すときに複雑な内容を説明する時でも、既習事項や例えを使って分かりやすく伝えることができる。また、アイデア間の関係性を整理して、聞き手に効果的に内容を伝えられている。
	伝える工夫	伝えようという意思がない。	相手に伝わるような声量で伝えている。	適切な声量で、ジェスチャーや図示をしながら伝えている。	適切な声量で、相手の反応を見ながら話すスピードを調整することや、ジェスチャーや図示をすることで伝えることができている。	適切な声量で、相手の反応を見ながら話すスピードを調整することや、言い換えや例えをすること、ジェスチャーや図示をすることで伝えることができている。
	発音・流ちょうさ	W杯出場国と日本との文化交流についての話題から外れている。また、十分な量をはなしていないので伝えたいことが分からない。	全体を通して、発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみが多いので、分かりづらいため、簡単な単語や語句の強調は正しい。	部分的なイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみのため少しわかりづらいが、理解できる発音である。	全体を通して正しい発音、イントネーション、リズムで話すことができている。不自然な沈黙がなく、分かりやすい。	
内容	関連性	W杯出場国と日本との文化交流についての話題から外れている。また、十分な量をはなしていないので伝えたいことが分からない。	ワールドカップ出場国と日本との文化交流について、事実を話すことができる。	ワールドカップ出場国と日本との文化交流について、事実と自分や周囲の考えを織り交ぜながら話すことができる。	ワールドカップ出場国と日本との文化交流について、身近な事実と自分や周囲の考えを織り交ぜながら話すことができる。	ワールドカップ出場国と日本との文化交流について、身近な事実と自分や周囲の考えを、歴史やその詳しい情報もふまえながら、話すことができる。

#### 4 本時について

(1) 主題 Let's talk about the rugby world-cup countries.

#### (2) 指導目標

- ・ラグビーW杯出場国と日本との間で交流されているものや人についての関心をもち、話された内容に対しての質問やその応答を積極的に行なわせる。

#### (3) 評価規準

①自分が調べたものについて、情報を整理し、分かりやすく伝えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

②相手の話に興味を示しながら、質問や考えを述べようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

#### (4) 授業の構想

本時は単元のまとめの活動のための情報収集の時間である。グループ毎に、ワールドカップで来国する国と日本で交流されているものや人について調べた内容を英語で伝え合う。生徒の意欲を喚起し、Q & A ややり取りを活発にさせるために、調べた国を伏せ、国当てゲームの形式で伝え合いを行う。イラストをヒントに質問をし合うことや、その応答をすることで、即興で英語のやり取りを行うことを目指す。

導入では、実際に生徒と教師でラグビーW杯出場国の一例を取り上げ、やり取りのモデルを共有することで、生徒に活動の見通しをもたせる。質問の振り方や答え方について確認をすることで、グループ活動をスムーズに進行させることができると考える。

展開では、同じ国について調べた人が同グループにならないようにし、国当てゲームを行う。インフォメーションギャップをつくることで、交流をする必然性を生み出し、自然なやり取りの状況ができるようにしたい。やり取りの時間の後に、グループの一人が得た情報についてリテリングを行うことで、聞き手の積極的な参加を促すとともに、グループで得た情報をメンバー全員で共有する。また、どのように質問をすることでより深い内容の会話となるか、グループで考える機会を設けて、やり取りの質的向上を図りたい。

終結では、交流を通してラグビーW杯出場国と日本との間で交流されているものや人について学んだことや、質問やその応答をする際に気を付けたいことなどを振り返る。やり取りを通じて学んだことを共有することで、英語で自分の考えや事実を伝えるだけでなく、即興でのやり取りができたという達成感を実感させたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入	0 3分前学習 ・英語の歌”The Nights”を歌う。 1 あいさつ 2 Teacher Talk ・ラグビーW杯出場国について確認をする。 ・その中の一国について国当てゲームを行うことで活動の見通しをもつ。 3 ゴールの確認 ・本時のねらいを共有する。	10	・ゲームの流れを理解できるようにする。
<b>Let's talk about the rugby world-cup countries.</b>			
展開	4 交流 ・調べた国が異なる人との国当てゲームを行う。(2分間) ・その後、各グループの一人が、その国の情報についてリテリングを行う。 <b>First try</b> ・一回目の国当てゲーム終了後に、やり取りの質を向上させるために必要なことを考える。  <b>Second try</b> First try をふまえて、二回目を行う。 ・どんな質問をすることができたか共有する。  <b>Third try</b> Second try をふまえて、三回目を行う。 ・いくつかのグループのリテリングを聞く。  <b>Forth try</b> Third try をふまえて、四回目を行う。 ・今までのポイントを確認して、内容豊かなやり取りを行う。  <b>Fifth Try</b> ・聞き足りなかった情報について自由に質問する。	30	・ゲームのルールを確認する。原稿や日本語に頼らないやり取りを促す。  ①自分が調べたものについて、情報を整理し、分かりやすく伝えようとしている。 <b>【態度】</b> ②相手の話に興味を示しながら、質問や考えを述べようとしている。 <b>【態度】</b>
終結	5 学びの振り返り (Reflection) ・本時を振り返っての学びの振り返りを記入する。 6 次時の確認 ・単元末のゴールを再度確認する。 7 あいさつ	10	・ゲームを通じて学んだことを確認し、英語でやり取りをすることに対する喜びを感じさせたい。